



林業機械は住友建機

SH135X-6 グラップル仕様

進化した作業性、安全性、経済性。オプションも多彩にラインナップ。

作業スピード、操作性、走行性能のさらなる向上。FVM標準装備および高剛性キャブによる安全性の徹底。そして、定評の低燃費性能をさらに磨いた経済性。「林業機械は住友建機」——その自信が、またひとつ深まりました。

操作レバー
スライドスイッチ(プロボ)

レバーのスライドスイッチの操作量に応じてグラップルの旋回速度や開閉速度が変化し、傾斜地でも滑らかで安全な操作が可能です。



左旋回

左レバー

右旋回

ホーン

グラップル「開」

右レバー

ワンタッチ
アイドル

グラップル「閉」

CONTENTS



苫小牧バイオマス発電
株式会社
北海道
SH250-6MH グラップル



株式会社
レンタルのニッケン
東京都



株式会社 ヨシカワ
石川県



八頭中央森林組合
鳥取県
SH75X-6A
KESLA20SH



丸和林業グループ
山陰丸和林業株式会社
島根県 / 京都府
SH135X-6 スイングヤーダ

SHINYU BACK NUMBER



森友 vol.07
齊藤重興業 / 北海道
SH135X-6
気仙地方森林組合 / 岩手県
SH120-5
小田原緑化開発 / 群馬県
SH135X-6
白川町森林組合 / 岐阜県
SH135X-3B
丹波市森林組合 / 兵庫県
SH75X-3B
山陽商事 / 岡山県
SH125X-3
宮崎森林発電所 / 宮崎県
SH120-5



森友 vol.06
五島森林組合 / 長崎県
SH135X-3B
四万十町森林組合 / 高知県
SH75X-3B
飛騨高山森林組合 / 岐阜県
SH120-5



森友 vol.05
グリーン・シャイン / 鳥取県
SH75X-3B
秋田グリーンサービス / 秋田県
SH75X-3B
つがる森林組合 / 青森県
SH135X-3B



森友 vol.04
山崎木材 / 広島県
SH135-3B
美山町森林組合 / 福井県
SH135X-3B
群馬県森林組合連合会 / 群馬県
SH120LC-55M
北海道ニッパ / 北海道
SH135X-3B



森友 vol.03
上野物産 / 鹿児島県
SH75X-3B
長浜市伊香森林組合 / 滋賀県
SH135X-3
神子沢林業 / 山梨県
SH120-3
木材商秋田林業 / 徳島県
SH120-5
竹田木材 / 石川県
SH135X-3B
よつばフォレスト / 浅野産業 / 北海道
SH135X-3B



森友 vol.02
清洲林業 / 高知県
SH75X-3
松岡地区木材協同組合 / 三重県
SH135-3B
秩父広域森林組合 / 埼玉県
SH75X-3B
西垣林業 / 奈良県
SH200LC-55M
日和田林産 / 岐阜県
SH135X-3
三井物産フォレスト / 北海道
SH120-3



森友 vol.01
萬進寺林業 / 鹿児島県
SH135X-3
美山村森林組合 / 和歌山県
SH75X-3B
三次地方森林組合 / 広島県
SH75X-3
二和木材 / 岩手県
SH120-3



住友建機株式会社

〒141-6025 東京都品川区大崎2-1-1(ThinkPark Tower) ☎ 03-6737-2600
ホームページアドレス <http://www.sumitomokenki.co.jp>

LINE UP

バイオマス発電を通じて 地元貢献する



塚田 洋平 代表取締役社長

苫小牧バイオマス発電株式会社

住所：北海道苫小牧市晴海40-4
電話：0144-53-0111
設立：平成26年8月



苫小牧バイオマス発電株式会社は、三井物産（株）、（株）イワクラ、住友林業（株）、北海道ガス（株）の共同出資により平成26年8月に設立された新会社です。（株）イワクラの本社隣地において発電規模5.9MWの発電施設を建設し、再生可能エネルギー固定買取制度（FIT）を利用し発電事業を行うもので、平成28年12月の稼働開始を目指しています。発電した全量は北海道ガス（株）に販売する予定です。近づく稼働開始のお忙しい中、代表取締役社長 塚田洋平氏に設立の経緯などを伺いました。

「三井物産では、数年前からバイオマス発電の計画があり、その用地を全国的に選定していました。三井物産は日本企業で第四位の広さの社有林を全国に保有しており、その約8割が北海道に位置しています。そこで出た未利用材を燃料として発電するということからプランが始まりました。そして北海道の中で建設用地を探していたところ、社有林を管理している三井物産フォレストがイワクラさんとお付き合いがあり、今回この場所が適地であると紹介していただき事業計画が動き出しました。未利用材を燃料としてバイオマス発電を行うことで、新たに木質チップ年間約6万トンの木材需要が発生し、なおかつ森林環境の整備促進や地域の振興に大きく貢献するほか、雇用の創出など社会的に有意義な事業になります。今はまだ準備段階ですが、今日まで事業がスムーズに進展しているのはパートナーに恵まれたことが大きいと感じています。燃料となる未利用材の確保も、特に心配していません。本格的に発電が始まると次は効率化のことになると思います。現在は約8.5万トンの在庫を保有していますが、ゆくゆくは3万

トン前後、半年分くらいの在庫に抑えたいと思っています。将来的には、稼働の状況をみて二号機の建設など事業拡大を考えています。」

今回の事業開始に併せて、弊社住友建機から機械を購入いただいた理由もお話いただきました。

「一番の理由は貯木場の広さですね。比較的狭いので出来るだけ高く安全に積みたかったのでキャビンが上昇し腕の長いタイプのものを探し住友のSH250 MHにしました。あと小型ショベル（SH135X）も2台、チップ投入用に採用しました。使い勝手も問題ありません。」との言葉をいただきました。次に新会社に共同出資され隣地に本社を構える（株）イワクラ管理部技術開発室の高橋賢孝室長にお話を伺いました。

「イワクラは大正2年の創業以来、木を原点とした事業に携わっています。林業として現在は国有林の造材、造林が主体です。バイオマス発電事業に関しては何社からかオファーがありましたが、三井物産から創業100周年を迎えるに当たりお話があり、同社が北海道に社有林を保有されており、現会長が以前に仕事でお世話になったことなど色々と『ご縁』を感じたことがきっかけだそうです。

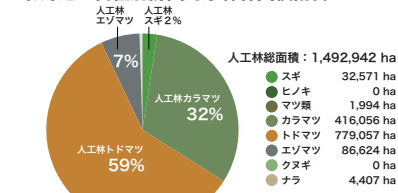
新事業に関しては木質燃料の集荷調達の一端を担わせていただいています。材の安定供給がこの事業のキーになりますが、木を100%使いこなすのがイワクラの理念で、長年にわたり蓄積したノウハウで貢献したいと思っています。」

●レポート 札幌支店 上野 雅紀



建家（建設中）

北海道の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源調査調査」の主な調査結果をとりまとめたものである（平成24年3月31日現在）
引用元：林野庁 HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>

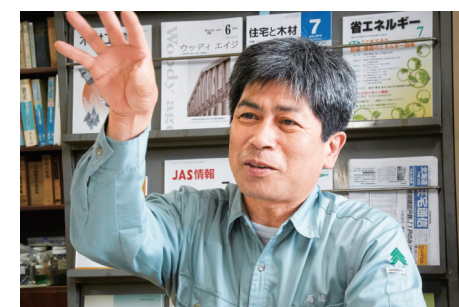


SH135X-6 グラップル

積まれた材（1.5年分の備蓄）



SH250-6MH グラップル



高橋 賢孝 技術開発室長（株）イワクラ

林業現場レポート
広域レンタル業からの今をお届けします。



三山 大八 代表取締役社長

株式会社レンタルのニッケン

住所：東京都千代田区永田町2-14-2山王グランドビル
電話：03-5512-7311
設立：昭和42年7月

昭和42年に栃木県足利市で建設機械のレンタル会社として創業された同社は、創業者の企業理念であったお客様の「困った」の声に応えることで、建設機械のレンタルを核として、社業の発展を続け今や全国に1支社、16支店を始めとして計238拠点を構える日本でも有数のレンタル会社に成長した。

そんな成功、発展の秘訣を、三山大八代表取締役社長にお伺いした。

「創業当時から、現場で働くお客様の困ったの声に応えるため、弊社の姿勢は一貫してきました。お客様とお話しして、最適な機械を提供する。また、世の中にない機械は独自で開発する。厳しい品質管理を徹底しお客様の安心安全を最優先で追求する。機械のメンテナンスは専門資格を持った社員があたり、同じ故障は起こさない。そして、50年間培ってきたお客様への思いや仕事への姿勢、技術力やノウハウが評価され、活躍の場が今日では様々な分野に広がってきています。建設にはじまり、土木、林業、鉄道、造船、製鉄、空港、災害復興、各種イベントなど様々な専門分野の様々な現場に対応するため6800種類、90万点に及ぶ商品が使用され活躍しています。常に新たなレンタル需要を創造してお客様の困ったにお応えしたいと考えています。」

同社の様々な分野でのご活躍の中でも、特に注目したいのは林業分野への取り組みである。



お客様の「困った」
の声に応えるために」

SH135X-3B ロングリーチグラブ



左から真進 太郎次長、東根 一 顧問、林野 一樹さん



SH75X-3B ハーベスタ



青葉 通 部長



実習風景



群馬県桐生市林業研修センター

住友建機の機械を選定いただいたことなども含めてお話しいただいた。

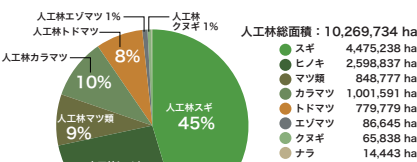
「弊社が林業機械を扱って10年足らず、今はまだお客様を知る段階だと思っています。機械選定に関しては、住友建機が早くから林業分野に取組んでいて、ノウハウがしっかりと蓄積され、ベースの機械にも反映されていると感じました。また、KESLAのアタッチメントは高評価です。現在高性能林業機械は、全国に約500台配備し、お客様にご利用いただいています。また、研究のため、創業地に近い群馬県の森林をお借りして、そこで実際に高性能林業機械を使い社員研修を実施して機械の全てをマスターしています。お客様の気持ちになって機械を使ってこそ、お客様目線のレンタル商品のご提供を可能にすると考えるからです。」

後日、三山社長のお話しにあったニッケンの林業研修センターを訪問して同社産業レンタル事業部林業部の青葉部長にご案内いただいた。

「2014年9月に、ニッケンの林業に関係するすべての社員が、森林整備の実体験を通して、説得力のある営業、機械メンテナンスができるようにと考え開設しました。この研修センターの広さは、4.6ha。ここで月に1回、外部より講師を招いて林業の基本を体験しています。開設以来2年間で約150名が研修を受けました。掘削機での道作りやチェーンソーでの伐倒や玉切り、枝払い、森林でのフォワーダ走行など多くの社員にとって初めての経験でした。レンタルの新商品も、ここで使用体験、試乗体験をしています。その経験があるからこそお客様に安心してご利用いただけると確信しています。」

●レポート 直轄営業部 鈴木 大輔

全国の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである (平成24年3月31日現在) 引用元: 林野庁HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkeiyou/h24/4.htm>



吉川 義一 代表取締役社長

株式会社 ヨシカワ

住所：石川県金沢市北安江3-1-33
電話：076-265-4111
設立：昭和5年



美しい森林を 次の世代に伝えたい

株式会社ヨシカワは、昭和5年に創業され荷車のレンタルで好評を博し、併せてウインチやジャッキなどの製造販売で社業の発展を見た。そして、高度成長期の建設ブームにはそれまでの道具から建設機械へとレンタルの主力商品は変わり、昭和50年代になると、重機や大型の建設機械へとレンタル商品の多様化が進んでくる。また、10年前より新たに高性能林業機械のレンタルを開始し、時代の変遷や顧客のニーズに的確に応えることで、現在は地元金沢を初めとして、北陸、中部、関東、東北と、9県40か所の営業所を構えるに至っている。着実に発展を続ける同社の吉川義一社長に林業機械の導入への経緯をお聞きした。

「ある時、CO2削減をテーマとしたテレビ番組を見ました。要約するとCO2の削減には木を育て、森を育むことが必要で、自然のあるべきサイクルを守ることがいかに大切かという内容で、将来の国土保全を考えると林業が極めて重要で、今後は地球環境の保護に貢献する仕事が自分たちにも求められると考えました。2007年、当時の住友建機の専務に高性能林業機械のビデオを見せてもらい、『とにかく、この機械が面白い、欲しい』と思い、即座にハーベスタを2台購入しました。」

その少年のような思いつきで購入した2台が、現在では300台の林業機械を保有することになるのだが、それを支えた社員の方々の努力も忘れてはならない。

岸常務や林業推進部の谷内部長に、当時のご苦労や現在も留意している点を語っていただいた。「当初林業機械は購入されるのが中心で、レンタルは中々受け入れてもらえませんでした。ストローク式のハーベスタは仕事が遅いという印象があったようで、それを払拭するため、お客



メンテナンスのエキスパートによる講習風景



様の作業内容によって適正に製品調整をしてお試して使っていただくことによりストローク式の良さを理解して頂けるようになります。高性能林業機械は、搬入時にお客様の作業内容によって適正な製品調整とその取扱説明をすることが非常に必要です。建設機械とは違い、そのための社員教育が必要でした。顧客の要望を正確に理解し、ベースマシンも、アタッチメントも調整できるプロであり、かつ仕事ができるだけでなく、お客様と話ができて、マネージメントもできる人材の育成に尽力しました。また、お客様の多様なニーズに応えるため、豊富な機種を揃える必要がありました。更には、林業機械を使う現場は山の中なので、絶対にトラブルが発生しないように機械の点検・整備、万が一のトラブル発生時



の迅速な対応は、最重点事項として取り組んでいます。」

株式会社ヨシカワの林業機械との10年にわたる誠実な取り組みは衆知のこととなり、富山県農林水産公社主催「緑の雇用」フォレストワーカーの研修を委託されるまでになった。

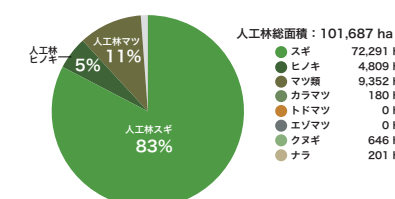
最後に吉川社長に会社の理念をお話いただいた。「お客様の期待通りのものを提供しても感動はありません。対価以上のものを提供してこそ、お客様に認められお互いの関係は深まると考えています。お客様と現場に入り、共に考えることで他社との差別化が図れるのです。建設機械の対象は無機質なものでしたが、林業機械の相手は生きた木で、違った視点と発想で取り組むことにより、お客様により良いものを提供できと思っています。」

●レポート 北陸支店 山森 勝之



岸 満彦 常務取締役

石川県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源現況調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。資料4-4-3(3) (08/06/09) 引元：林野庁HP <http://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>



谷内 千代美 林業推進部長

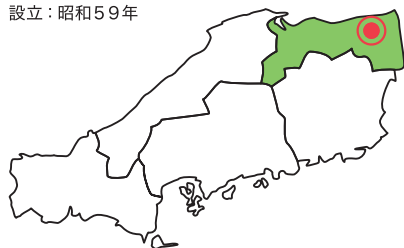
林業現場レポート
鳥取県からの今をお届けします。



前田 幸己 代表理事組合長

八頭中央森林組合

住所：鳥取県八頭郡八頭町郡家763-10
電話：0858-72-1111
設立：昭和59年



SH75X-6A KESLA20SH



森を活かし豊かな緑を未来へ

八頭中央森林組合は県の東部に位置し、三度の合併と皇居豊明殿の天井板材を産出したことで有名な吉川地区を擁する若桜町の新規加入を経て、組合員数3,919名、管内総面積約65,000ha、人工林面積26,000ha、その中、組合員の有する面積18,000haを管轄する広域組合である。

平成19年以前は皆無に等しかった搬出間伐が、国の森林・林業再生プランに取り組んだ結果飛躍的な発展を見せている。その発展の推進役である前田組合長にお話を伺った。

「組合の管轄する地域は、古くからの林業地域や戦後植林してそのままに

なっている地域など様々で、当時は山の整備がほとんどできていない状態でした。今も職員に言っていますが、この組合は地域の森林管理の担い手であり、出資していただいている組合員への貢献がミッションであると。そのため組合員の方々に、間伐の必要性や将来のための森林育成や整備の大切さを説明し提案しました。少しずつ賛同をいただき整備を進め、平成22年5,000㎡だったのが昨平成27年には間伐だけで60,000㎡に増えました。ただ、これでもまだ全体の12%しか手入れが済んでいません。今年から平成32年に100,000㎡を目標としたアクションプログラムを作成

し、計画的な施業に取り組んでいます。その数値を達成しても整備率はまだ低いので、組合はますます頑張らねばと思っています。」

この組合の発展は、人的な努力はもちろんだが鳥取県内でも突出した高性能林業機械の充実が一端を担っていると言える。平成19年に最初のKESLA20SHを採用いただいた時からおられるオペレーターは、9,800時間運転され、現在2台目で10,000時間を越えているという。早くからストロークタイプのKESLAを採用いただいた経緯など清水専務理事にお聞きした。

「この地域は樹種としてスギが多いの

ですが、山陽側のヒノキと山陰側のスギを比較するとスギのほうが固いのです。雪が積もる地域の木は成長が遅く年輪が詰まっているからです。何社かのデモ機を比較した時、引き上げた木の枝が確実に打てる事を最優先にして決めました。初期のものは電気系統のトラブルもありましたが、それを差し引いても良い機械だと思います。

直近でもKESLA20SHやグラップルを購入しましたが基本的に住友建機の代理店である福田建機さんを信頼しているからです。メンテナンスなどの対応が素晴らしいから。

機械化は今後も大切ですが、機械だ

けでは対応できない現場も多くあります。そのため、現場には林業の匠になれと要求しています。何でもダメだと思わず何とかやってみよう、ここに頼めば何とかしてくれるという信頼が得られるように、自分だけでなく組合員の方に満足いただける存在になるよう努めようと思っています。新3Kというのですか、「きれいな現場」「気配りのある現場」「感動のある現場」職員の意識の向上を目指し新しいテーマにしようかと思っています。」

●レポート 鳥取営業所 木村 健児

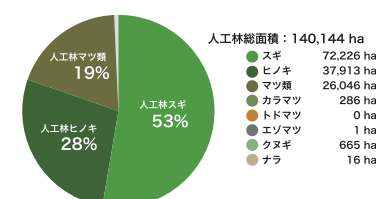


SH75X-6A グラップル



清水 和美 専務理事

鳥取県の樹種別計画対象森林面積割合



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目的として平成24年度に実施した「森林資源利用実態調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。作成：鳥取県林業再生推進課。引用元：林野庁HP <http://www.rinyo.maff.go.jp/j/keikaku/genkeiyou/h24/4.htm>



北岡 幸一 代表取締役社長

「和」をもって「緑と共に生きる」

丸和林業グループ 山陰丸和林業株式会社

住所：鳥根県松江市西津田1-2-14
電話：0852-23-1300
設立：昭和37年5月

丸和林業グループの母体である丸和林業株式会社は、昭和26年に高知県高知市で設立された。その後順調な社業の発展に伴い中国地方にも進出。より地元に密着した細やかな営業を目指し同社の山陰地方の全事業を引き継ぎ、昭和37年に山陰丸和林業株式会社を、鳥根県松江市にて設立した。現在本社のある鳥根県以外にも鳥取、岡山、兵庫、京都の各府県に8営業所を構え事業展開するに至っている。

9年前31歳の若さでグループの総帥となられた北岡

幸一代表取締役社長にお伺いした。

「丸和林業グループは、創業当初より製紙会社に製紙原料用の木材チップを加工販売する事業をメインとして来ました。そのため弊社の工場は、製紙会社の工場の近隣に開設されていましたが、最近ではFIT制度の適用を受けたバイオマス発電所からの受注が増え、直近の2年間で4工場を新たに開設し生産も売上



林 俊文 取締役 宮津営業所長

も増大しています。グループ全体の昨年度実績では、全国20か所の工場で年間40万㎡の木材チップの生産しており、これは日本一の生産量であると自負しています。

製紙用とバイオマス用のチップ事業以外に、自社で山を購入して植林、育林、伐採、間伐など森林を適切に維持管理することを目的とした山林事業。

木質系の産業廃棄物を収集・運搬する許可を得て、木屑をリサイクルして製紙用、バイオマス用に再生する木材リサイクル事業。

工事用モノレールや工事用索道を設計施工する架設事業。

これらの4事業を柱として緑と共に生き、森林資源を守り有効活用する『総合グリーンカンパニー』を目指しています。

ただ、林業は危険な仕事というイメージがあり、実際林業業界は安全意識が低く労働災害が起きやすい環境にあると思います。林業の地位向上のためにも、徹底した安全管理と高性能林業機械の導入なども含め安全設備の充実を

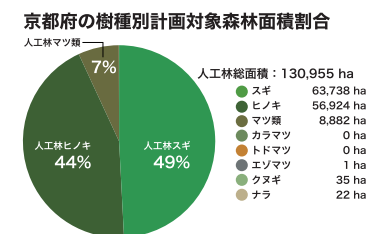
心がけていて今では115台のショベルを保有しています。」

次に、兵庫県和田山の現場へ同社の宮津営業所長である林取締役をお訪ねした。この現場には最近購入いただいた弊社のスイングヤードが設置されている。住友建機の高性能林業機械についてお話しいただいた。

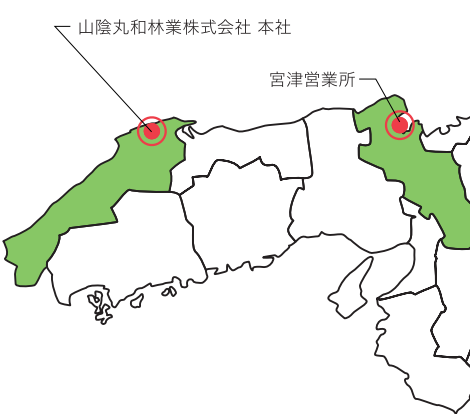
「以前より住友の機械は色々に乗ってきました。どこをとっても他社の機械に劣るところはありませんが、一番の特長は足回りでしょうね。思っているよりかなり早いし登攀力が強いので使い勝手が良いと思います。それとメンテナンス

の対応が誠実で素早いことが、助かります。代理店の福田建機さんが、昔から地道に営業を重ねてくれたおかげで、必要な機械もかなり揃いました。」メーカーとして、より良い機械をお客様に提供したいと願っているが、誠実な営業努力を続ける代理店があつてこそだと感じた。

●レポート 鳥取営業所 木村 健児 / 北近畿支店 阿西 哲也



林野庁が全国森林計画策定の基礎資料を得る事を目指して平成24年度に実施した「森林資源実態調査」の主な調査結果をとりまとめたものである。資料番号：H24-113(森研)引用元：林野庁HP <http://www.maff.go.jp/j/keikaku/genkyou/h24/4.htm>



チップ機に投入する SH135X-6 グラブブルソー



SH135X-6 スイングヤード

